



6月29日、来庁された米林監督と栗市長

ごあいさつ

平成29年7月5日

7月に入り、何かとうれしいことが続きます。

7月8日から公開される『メアリと魔女の花』の本市出身の米林宏昌監督が6月29日に来庁されました。市役所に到着されてから市長室に入られるまでの間、職員をはじめ、そのとき来庁されていた市民の皆さんからも温かい拍手でお迎えいたしました。監督とは今まで何度もお会いしているのですが、そのたびにご活躍のステージが広がり、存在が大きくなられているので緊張します。米林監督のお人柄もあり、その立場にあっても今までと変わらない様子で話されているのが、かえってとてもうれしく感じました。

夕方にはイオンシネマ御経塚で新作『メアリと魔女の花』の野々市市特別試写会がありました。公開前なので内容をお伝えることはできませんが、1時間40分、スクリーンに釘づけになりました。映画館の売店には大変申し訳ないのですが、観ながらポップコーンをつまむ余裕がないくらい飽きのこないストーリー展開です。多くの方を魅了するアニメ映画が完成したなあと思います。

米林監督からは野々市に帰ってくるたびに温かい歓迎を受け、大変感銘を受けているというお話をいただいています。市が取り組んできた「野々市ブランド」ということ以上のご活躍をされ、このようなすばらしい方が野々市出身であることを誇りに思っていたら、市民の皆さんの更なるご支援をお願いしたいと思います。

米林監督をさらに身近に感じられるように、富奥防災コミュニティセンターには監督の子どもの頃の思い出を含めた絵を描いた陶板を展示しています。11月にオープンする「学びの杜ののいち カレード」にも米林監督に描いていただいた円形状の間仕切りや、子どものお話しコーナーなど、そこに行けば米林監督の作品に出会えるような工夫を凝らしています。

「学びの杜ののいち カレード」も徐々に仕上がり、内部的な図書の移動のことなど、これからは心臓部ともいえる部分を作り上げていくこととなります。運営については事業者とも調整を取りながら、本市の思いもしっかり盛り込んでいきたいと思っています。何かしら図書館に行けば、図書とのふれあいだけでなく、いろいろなものをご覧いただけるようなことを考えておりますので、お楽しみにお待ちください。

今週末には、「北国街道野々市の市」が開催されます。回を重ねること7回ということで、市の魅力や、野々市ブランドの発信、そして市民協働のまちづくりを象徴する行事となってきました。地域の皆さんが自分たちで準備を進められているので、今年はどうなるのかと期待感を持っています。文明18年（1486年）聖護院道興が野々市に立ち寄った際に詠まれた和歌「風おくる一村雨に虹きえてのゝ市人はたちもをやまず」から、当時の野々市の賑わいを伺い知ることができます。その賑わいは「北国街道野々市の市」に関わる皆さんによって今の時代に再現されているように思えてなりません。

先日発表された東洋経済新報社の「2017年住みよさランキング」では昨年より順位はひとつ落としましたが、総合で全国5位という高い評価をいただきました。

本市に関わるすべての皆さんが、住む場所、働く場所、学ぶ場所、活躍する場所として誇りを持つことができるまちを目指し、進んでいきたいと思っております。